

「求む新鮮力―道内大学アメフト部の新勧作戦」④北海道大

勉強も大事です

北海道大アメリカンフットボール部が新人勧誘作戦の柱に据える履修相談会は、入学式前日の4月5日から始まった。新入生の履修届提出期限に合わせて、今年は14日までの7回を開催した。練習体験会やタッチフットボール体験会などとセットにして、講義の選び方などをアメフト部員たちが手ほどきし、合わせてアメフトにも親しんでもらうのが狙い。コロナ禍のためにオンラインのみの開催だった昨年も100人以上の新入生が参加し、10人の部員獲得につながった。

今年の北海道大アメフト部は、選手が4年生15人、3年生14人、2年生10人の計39人、スタッフは13人でスタート。勧誘目標は選手、スタッフ合わせて40人程度。新勧リーダーの渡部健人君（3年）は「ポジションごとに必要な人数を積み上げた」という。4月3日のドッジボール大会を手始めに作戦が始まった。

4月8日、大学構内の屋内競技場で開かれた5回目の履修相談会。タッチフットの体験会と組み合わせたこの日も、人工芝のフィールドに履修資料を持参した新入生男女が続々と詰めかけた。専攻別に新入生を2、3人ずつに分け、同じ専攻の先輩部員がカリキュラムの組み方や「お勧め」の講義などを伝授した。1年生は前、後期にそれぞれ21単位の取得が必要で、総合理系の学生の場合は1年生の成績で2年生からの進路が決まるだけに、参加者は真剣だ。代々の履修情報を入力したパソコン持参の先輩たちが「『伊勢物語を読む』は試験が少ない」「『かむことと健康』は出席が大事」などと貴重な情報を伝えた。履修相談会がきっかけで入部を決めた小野田天馬君（奈良高出身）は「体を大きくしたくてアメフトを選んだ。履修相談会で部の雰囲気も分かり、講義も安心して選べた」と感謝した。

半数近くが道外から入学する北海道大。関東圏や関西圏の高校でアメフト部だった経験者の獲得も大事な作戦だ。1年生から先発QBを務める兵庫・六甲学院高出身の茨木大輔選手（4年）など、今年も2年生以上に11人を数える。経験者の獲得にはネットワークも欠かせない。新入生に高校時代の部活動を尋ねて「発掘」するほか、出身高校からの情報を元に熱烈勧誘することも。「チーム総力で取り組みます。今年もすでに1人獲得した」と渡部リーダー。

26日現在、選手12人とスタッフ2人の入部が決まった。渡部リーダーは「ほかにも手ごたえの良い人がいる。4月中に目標を達成したい」と意気込んだ。



グループに分かれ、履修相談をする新入生と北海道大アメフト部員たち